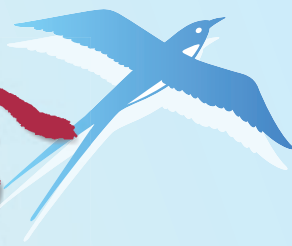


理学部は今



No.22 June 2009

理学部のホームページ <http://www.sc.niigata-u.ac.jp>



台湾中原大学理学部訪問 (4/2)



高橋正道教授が日本植物分類学会(3/13-15)において、学会賞を受賞されました。(詳細は理学部ホームページをご覧ください)



後援会総会 (4/6)



新入生物学部ガイダンス (4/8)

CONTENTS

■学部長あいさつ……………	2	・栗原 敏之 助 教(地質科学科) ……	4
■中原大学理学部訪問……………	2	・伊東 孝祐 助 教(生物学科) ……	5
■後援会長あいさつ……………	3	■職員異動……………	5
■後援会H20年度事業報告		■進路状況……………	5
H21年度事業計画 ……	3	■在学生の声……………	6・7
■理学部と後援会の連携強化について…	3	■学科ニュース……………	8
■新任教員紹介		■理学部コロキウム予定……………	8
・藤間 真紀 助 教(生物学科) ……	4	■これからの行事予定……………	8
・岩本 啓 准教授(化学科) ……	4		

元気な理学部をめざして ―理学部長就任にあたって―

理学部長 谷本 盛光



2009年4月に、周藤前学部長のあとを引き継いで理学部長に就任いたしました。理学部長としてこの2年間、もてる力を尽くしたいと考えております。

法人化してすでに5年が経過し第1期中期目標・中期計画期間が終わりつつあります。すでに報告がなされておりますように、第1期の新潟大学理学部における教育研究の暫定評価も公表されています。理学部教職員が力をあわせて頑張れたというのが実感です。しかし一方、法人化に移行するにあたって抱いていた期待と現実の齟齬は大きいというのも多数の教職員の実感かと思えます。教職員の定員削減には歯止めがかからず、さらに教育と研究にかかわる予算の削減は大学を直撃しているように見えます。数十万円の研究費で苦慮する教員が多いのが実態です。多忙と研究費の欠如で苦勞する教員のことをマスコミも取り上げはじめ、この4月に文部科学省は各大学における「財政的に苦勞している具体的な事例」の収集に乗り出したほどです。来年からは、第2期中期目標・中期計画期間がはじまり、それに向けての実施計画策定の段階に入っています。この時期に、「元気な理学部」の構築が大きな課題です。

いま私たち大学を取り巻く社会環境も急速に変化しています。まわりを見わたしても、経済状況の悪化で苦しむ学生、学業を断念せざるを得ない学生がでてきています。社会の困難が大学に直接反映するようになってきているのです。その状況下であるからこそ、理学部における基礎科学の重要性をアピールし、元気ある新潟大学理学部を作り、学生を支援しながら育ててゆくという課題は重いものです。そのためには越えなければならない課題があります。それは、基盤的教育研究費の確保と教員が教育研究に十分専念できる時間的ゆとりの確保です。

2008年、日本人4名の研究者がノーベル賞を受賞し、日本の科学の水準の高さを示しました。これら基礎科学の研究成果はかつての日本の科学の水準の高さを示すものです。歴史に残るノーベル物理学賞、小林・益川理論の成果は科研費の補助を受けたプロジェクト研究ではありませんでした。30年前ののどかとも言えるアカデミックな大学での野心ある議論から生まれたものです。当時の学問への情熱が満ち溢れる研究室での成果です。ノーベル物理学賞の受賞理由のはじめ

に書かれているものは「対称性への情熱」です。このように情熱のあふれる学問の環境を教職員、学生でどのように作り出してゆくか、いたずらに実利重視の社会の流れに迎合することなく、知恵をしばってゆきたいと思えます。はじめは小さくてもよいのですから、新しい学問の発芽を理学部から育ててゆける環境を作りたいと考えています。もうすでに芽がではじめた教育研究もあると思えます。発芽した研究を理学部として支援していくことも重要です。理学部らしい教育研究のキーワードは「選択と集中」ではなく、「多様性の確保」であると考えます。小林誠さんは「将来への発展への芽としての多様性が大事だ」と強調されています。研究費を競争的資金に頼る傾向は「正常な状況でない、ぜひとも基礎的研究費を充実していくべきだ」とも力説されています。また、益川敏英さんは、集中投資策は基礎科学の振興と矛盾すると発言されています。私たちには、基盤となる財源確保の労苦は避けられませんが、教員が財源確保のため多くの時間を費やし疲れ果ててしまうことのないよう、理学部としての支援が必要と考えます。

一方、21世紀の課題である情報技術の開発、先端技術の開発、新素材の開発、自然環境の保全など社会に深く関わる課題は、地域社会とかかわって進展できるものだと思います。社会からの期待にも応える教育体系を構築しながら、社会に十分理解され受け入れられる理学部作りも目指す必要があります。また、教育研究の国際交流は新しい刺激を理学部にもたらし、学生教育に大きな役割を果たします。社会で広い視野をもって活躍できる学生を育てることが可能となるのです。

科学を語るアインシュタインの言葉は私たちを勇気づけます。「現実の世界にくらべれば、科学などはごく素朴で他愛のないものでしかない。それでもやはり、われわれが持てるものの中で一番貴重なもののだ」。この貴重な科学を、元気な学生を育てながら継承してゆければと思います。それは元気な教職員がいて学問の香りする学部でこそ可能になることです。

後援会の皆さまには、理学部の今をご理解いただき、これまで以上のご支援をお願いいたします。(2009年4月21日)

台湾・中原大学訪問団の来学

4月2日に台湾の中原大学理学院から董世平理学院長をはじめとして9名、台湾国立東華大学から1名、総勢10名の訪問団をお迎えしました。

中原大学理学院と理学部ならびに大学院自然科学研究科との間では、2005年7月に部局間交流協定が結ばれました。それ以降、教職員の相互訪問や短期留学生の受け入れなどの相互交流が着実に進んでいます。また、この3月には中原大学への短期語学研修を実施しました(学生5名が参加)。

当日は下條学長への表敬訪問、教員間の意見交換会の開催、学科別の交流、歓迎会の開催などを行いました。歓迎会では中原大学からの留学生や短期語学研修に参加した学生のスピーチなどもあり、楽しい語らいのひとときを過ごしました。今年も中原大学から1名の学生が理学部へ短期留学を希望しているとのこと。今後さらに両校の交流が発展するものと期待されます。

なお、4月1日の時点で理学部が受け入れている留学生は計9名です(韓国から4名、台湾から3名、オーストリアから2名)。

後援会長あいさつ

平成21年度理学部後援会会長 岩瀬 耕一



新1年生のご両親および関係者の皆様、ご入学おめでとうございます。後援会会員の皆様、ご進級おめでとうございます。本年度後援会会長をやらせていただくことになりました岩瀬と申します。

今年も桜の開花の時期を迎え、新潟も春の日差しで一杯にならんとしています。

世の中は100年に1回の不況のまっただ中と言うことで、皆様もお子さん達の将来、取りわけ良い就職先が確保できるかというところをご心配のことと思います。

しかしながら、将来どうなるだろうと心配してみても自分一人

では世の中の景気を良くすることなど出来ません。それよりも、一人一人が今出来ることを精一杯行なうと言う意識と行動が、世の中を変えていく原動力になるものと信じています。学生の皆様には、自分の足元をしっかり固め、自分の力をつけて、来るべき出勤時に備えていただきたいと思います。

新潟大学理学部の卒業生は世の中の指導的立場で多くの方々が活躍され、後輩達が社会に出て活躍される基礎固めをして下さっています。ご指導いただく先生達は、学生の将来を真剣に考え御指導して下さいます。

我々後援会としては、大学生という人生で二度と無い素晴らしい時期を、勉強はもちろん、人生を楽しく送るためのたくさんの知識を身につける充実した期間として送っていただくために、様々な後援活動を計画しています。何卒皆様のご協力をお願い申し上げます。

平成20年度 理学部後援会事業報告

1 定期総会の開催

平成20年4月7日（月）11時から
新潟大学理学部B303講義室

2 各種事業

- (1) 学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読（新潟日報、朝日新聞、日本経済新聞、日刊スポーツ）
 - ② 大学祭援助
 - ③ 学生用設備充実の援助（学生ロビー整備）
- (2) 学部教育事業関係
 - ① 特別講演会の開催、学生用図書購入、新入生合宿研修、野外実習及び臨海実習等の援助
 - ② 学生インターンシップ協力事業所との懇談会への援助
 - ③ 国際交流事業関係等への援助
- (3) 卒業祝賀会関係
平成21年3月23日（月）15時30分から（卒業式終了後）新潟東映ホテルで卒業祝賀会を開催し卒業生、保護者、同窓会後援会役員、教職員の方々から多数参加いただき盛大に行われました。
- (4) その他
広報活動として「理学部は今」を年2回発行

3 理事会の開催

平成21年3月27日（金）17時30分から理学部小会議室

平成21年度 理学部後援会事業計画

1 定期総会の開催

平成21年4月6日（月）11時から
新潟大学理学部B303講義室

2 各種事業

- (1) 学生の課外活動及び福利厚生関係
 - ① 新聞の購読（新潟日報、朝日新聞、日本経済新聞、日刊スポーツ）
 - ② 大学祭援助
 - ③ 学生用設備充実の援助
- (2) 学部教育事業関係
 - ① 特別講演会開催への援助
 - ② 学生研修、実験・実習への援助
 - ③ 国際交流事業関係等への援助
 - ④ インターンシップ関係等への援助
- (3) 卒業祝賀会関係
卒業式当日に卒業祝賀会を開催
（参加者：卒業生、保護者、同窓会役員、後援会役員、教職員）
- (4) その他
広報活動として「理学部は今」を年3回発行

3 理事会の開催

平成22年3月29日（月）17時30分から理学部小会議室

後援会と理学部の 連携の強化について

大学での教育は、学生と教員が主に関わるものですが、学生を温かく見守る保護者の皆様の役割も重要です。この三者の連携があって、学生のより効果的な学修成果が得られます。理学部では「保護者の皆様が理学部を、より身近に感じて頂ける」ように、本年度次のような活動を実施します。

- ・ 理学部ホームページ（<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/>）を分かりやすく、見やすいものへと改良し、保護者の皆様への様々な情報を掲載します。
- ・ 後援会広報誌「理学部は今」を充実させ、より多くの情報を皆様にお知らせします。

従来、年2回発行だったものを、今年度から年3回の発行にします。

- ・ 保護者の皆様が理学部の行事に参加しやすい環境を整備します。オープンキャンパス、大学祭、進路説明会（大学院進学を目指す学生への説明会）就職ガイダンスなどを保護者の方も参加可能な行事と位置づけ、広報いたします。
- ・ 理学部見学は平日随時可能です。学務係へ事前にお問い合わせください。時間調整のうえ、担当者が学部をご案内致します。
- ・ お問合せや相談の窓口について
理学部では、各学科で学務委員、アドバイザー（すべての学生に担当アドバイザーが決まっています。）を配置し、学生の、学修上、生活上の相談に応じています。また学部として、学務係で成績・学生生活等、大学における学生についての全般を担当しています。大学のこと、学生のこと、色々なお問い合わせ、ご相談、ご意見は、理学部学務係にお寄せください。

（副学部長 竹内照雄）



新任教員紹介

よろしくお願いします

自然科学研究科 助教（生物学科） 藤岡 真紀

私は新潟大学の卒業生で、久しぶりに新潟大学に戻って来ました。小学生か中学生の頃に、顕微鏡で覗く植物組織が面白く、特に葉緑体が細胞内をくるくる回りながら動いている様子が“可愛い”と感じたことが、現職に至るきっかけです。その当時には、まさか自分が大学や大学院に進学し、教育や研究に携わるとは思いもしていませんでした。でも、押し付けられる勉強とは違って、興味あることを自ら調べよう、知ろうという意識を持つと、どんなことでも学ぶことが楽しくなりますよね。また、大学では講義だけでなく、実習や研究室に所属しての実験もあり、（上手く行かなくて苦し



く思うことも多いのですが）時にはとても面白いのです。そんなこんなで、高校での成績は国語と社会以外はダメだったのに、植物細胞の葉緑体のファンというだけで生物学を専攻し、気がつけば苦手な動物（しかも、ねずみ！）を飼い、化学や英語とも縁の切れない仕事を続けています。

数年ぶりの新潟大学は構内もきれいに整備され、今年は理学部の改修工事も終わり、明るく、設備等も改良された講義室、実習室を見て嬉しく思います。生物学科の講義内容も、基礎から先端の研究まで網羅しており、興味深いものになっています。と、最後に生物学科の宣伝まで。



着任のご挨拶

自然科学研究科 准教授（化学科） 岩本 啓

2月に自然科学研究科に着任した岩本啓です。広島大学から赴任してきました。どうぞよろしくお願いいたします。着任当初は環境の変化に慣れることに精一杯で、なかなか周囲を見渡す余裕がありませんでしたが、最近ようやく落ち着き、新潟の風景が目にはいるようになりました。私は神奈川で生まれ、埼玉、東京、そして広島とずっと太平洋・瀬戸内海側に暮らしていたことから、初めて経験する日本海側の気候は大変新鮮でした。突然鳴り響く冬の雷や強風と共に横から吹き付ける雪には驚きました。物質・生産棟6階からは広大な新潟平野、そして日本海に浮かぶ佐渡島を目に



することができます。穏やかな日のそれらを眺めていると、大変すばらしい景色に、心穏やかな気分になります。

専門は構造有機化学・超分子化学です。「超分子」という耳慣れない言葉が出てきますが、これは複数の分子が共有結合以外の結合（配位結合、水素結合など）や比較的弱い相互作用（van der Waals相互作用、疎水性相互作用など）により秩序だって集合した化合物のことを指します。つまり、複数の有機分子を人間が意図するように秩序立てて集合させ、単分子の有機分子にはない新しい性質や機能、“Something New”を見出すことを研究しています。なかなか思惑通りの性質、機能を見出すことは困難ですが、“Something New”を見いだしたときの喜び、興奮は他に代えることができません。これからは、私が加わった（集合した）ことで“Something New”が理学部に生まれるように、教育、研究を行いたいと考えております。

着任のご挨拶

自然科学研究科 助教（地質科学科） 栗原 敏之

2009年2月、自然科学研究科に着任しました。専門は地史学・古生物学で、日本や東アジアの3～5億年ほど前の地層や、顕微鏡サイズの微小な生物の化石を研究しております。2002年に筑波大学で学位を取った後、2003年から日本学術振興会特別研究員PDとして地質科学科に所属したのが新潟での研究生生活の始まりでした。以来、自然科学研究科博士研究員も含めてほぼ6年間お世話になってきたのですが、進取の気性を重んじる雰囲気触発されてか、その間にいくつかの新しい研究テーマに携わることができました。現在、それらは自身の研究の柱となりつつあります。



その一つが、2004年からフィールドワークを行っているモンゴルの研究です。現在のモンゴルは大陸の真っ只中にある“草原の国”ですが、かつての海洋の記録も断片的ながら残されています。私はモンゴルに残る深海底の堆積物とそれに含まれるプランクトンの化石に注目して研究を進めてきましたが、その結果は、3億年以上前のアジアにおける大陸と海洋の変遷史に、これまでに無い、新たな視点を導入することに繋がりました。研究のカウンターパートとなっているモンゴル科学技術大学やモンゴル地質情報センターとの人的交流も年々深まってきており、これからの展開が非常に楽しみであります。

フィールドワークという点では、新潟大学には長い伝統により培われた哲学が息づいているように感じます。今後はそれに裏付けられた研究が内外にますます発信されるよう、そして次の世代に継承されていくよう、上で紹介したような活動を生かしつつ教育と研究を行っていきたいと思います。それでは、今後ともよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

生物学科 助教 伊東 孝祐

この度、生物学科に着任しました伊東孝祐です。昨年1月に東京大学から本学の超域研究機構に赴任し、本年度から理学部生物学科でお世話になることとなりました。福島出身の私としては、新潟の気候も同じようなものだろうと高をくくっていたのですが、昨年1年間を新潟で過ごし、やはり日本海側の冬はとても厳しいと実感しました。ただ、冬が明けると今まで経験したことのない春の美しさ、そして夏には綺麗な日本海、何てすばらしい環境なのだろうと思いました。そして、いまだにお米、日本海の幸、お酒の旨さに感動です。



専門は構造生物学です。構造生物学とは、生物をかたちづくる巨大な生体高分子、特にタンパク質や核酸の立体構造を原子レベルで研究する生物学の一分野です。生体分子はその立体構造に基づいて機能しているため、それらの立体構造を決定することは、生体反応のメカニズムを理解するために必須な課題です。また、生体分子の立体構造を原子レベルで決定することで、薬の作用部位などが明らかになり、効率よい薬剤の設計も可能となります。このように、構造生物学は自然の摂理を理解しようという基礎研究であると同時に、医療、産業の発展に欠くことのできない応用研究でもあります。

微力ではございますが、新潟大学理学部の発展に貢献できるよう精進して参りたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い致します。

職員異動

本年4月から理学部の事務組織が変更になりました。昨年までは、自然科学系学務課の1部署として人員配置されていましたが、学務課が廃止され、理学部事務室として（工学部・農学部も同様に）組織変更されたものです。係名も学務課総務第二係、学務第二係となっていました。かねてより教員や学生の皆様から、事務組織が「わからない。わかりづらい。」と言われていたため、これに应运え独立した事務組織として理学部事務室が設置されたものです。内海正紀事務室長が、医歯学系（脳研究所）副課長から配置換えになり、事務総括を担当します。保科政明学務係長が、自然科学系学務課学務第一係（大学院）主任から昇任し、学務事務総括、入学試験関係、インターンシップ関係などの業務を担当します。横野大介総務係員は、4月1日付け新採用の本学卒業生で、主に旅費関係、

資産管理、入構カード管理などの業務を担当します。新任職員もいるため、平均年齢も僅かですが若返りました。理学部に馴染むまでの間、教員や学生の皆様には何かと御迷惑をお掛けすることがあるかも知れませんが、何卒、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



写真左から、横野大介、内海正紀、保科政明

平成20年度卒業生進路状況および平成21年度入学者数

入学者数		卒業生進路（平成21年3月卒業）						
新入学	3年次編入学	学 科	進 学	企 業	教 員	公務員	その他	計
41 *	5	数 学 科	17	11	8	1	4	41
51	1	物 理 学 科	28	8		2		38
38	1	化 学 科	20	9		2	2	33
22	3	生 物 学 科	21	5				26
26	1	地 質 学 科	14	4	1	1		20
31	1	自然環境科学科	15	10	1	1	1	28
209	12	計	115	47	10	7	7	186

* 留学生を含む

平成20年度の進路状況のうち、就職希望者に対する就職率は男子94.3%、女子100%、合計96.1%で、進学希望者に対する進学率は100%でした。卒業者に対する就職率は34%、進学率は62%です。



在学生の声



学んだこと 物理学科 2年 猪又 俊介

「お、なんか気が合いそうなやつがいるじゃん！！」

これが、初めて学科で集まってガイダンスが行われたときの感想でした。

入学する前から大学生活を楽しみに思っていたのですが、ひとつだけ不安がありました。前々から物理が好きで絶対に物理学科に入ろうとは思っていましたが、どう考えても内向的な人しかいないと勝手に思い込んで、楽しく騒げる仲間ができるのかなと不安に思っていました。でも今は、心の通う仲間達と毎日くだらないことをしたり、話したりして笑って楽しく過ごしています。多分、今の友達は僕にとって一生の宝物になると思います。

専門の授業は、好きな物理を勉強できるので楽しくてしかたないくらいです。自主的に問題集を買ってまで楽しくやっています。でも、専門や数学の授業以外の教養の授業にはなかなかやる気がでませんでした。その結果、専門は高得点だが、興味が沸かない教養科目はあまり良くない点を取ってしまいました。2年生からは、どの授

業も積極的に取り組もうと思っています。それに、大学にはとてもお金がかかっています。行かせてもらっていることを感謝しなければいけないと思いました。授業カリキュラムでは、一見興味がない授業をとることになることもあると思います。しかし、そこで少しでも興味をもとうと思って取り組むかどうかで、得られるものは全く変わってくると思います。

さて、大学生からは切っても切り離せない遊びの面ですが、振り返ってみると去年は意外と少なかった(?)ように思います。今年は、大学、地元の友達、そして彼女ともっと遊びたいと思っています。大学に入学したら、勉強は言うまでもなく大切ですが、心の通う仲間をつくることも、とてもとても大切だと思います。

以上が大学に入学してから今までに思ったことです。当たり前といえば当たり前ですし、未熟な僕が思うことなので、偉そうには言えませんが。最後に、物理学科の新入生及び将来そうなるかもしれない方々へ。新潟大学理学部物理学科の先生方はとても親しみやすく、優秀な方ばかりです。物理を学びたいと思う人は、僕達と一緒に楽しく物理を学びましょう。



一年間を振り返って 自然環境科学科 2年 浅田 実加

この一年を振り返って最も強く感じることは“この学科に入ってよかった”ということです。自然環境を考える上で必要な基礎知識が得られることはもちろん、それ以上にこの学科の先輩方と出会えたことに喜びを感じています。

自然環境科学科では先輩方と接する機会が多く、授業・実験・自主的な勉強会などで先輩方の知識の深さ、視野の広さ、発表の技術、企画力、積極性を目

の当たりにしてきました。そんな中で「こんな発表ができるようになりたい」「こんな考え方もあるのか」と感じ、さらに普段の人柄も含めて「先輩みたいになりたい!!」と思うようになりました。先輩方との関わりの中で多くの目標を見出し、もっと成長したいと思えたことがこの一年間で得られたかけがえのないものです。

今年度は先輩方に少しでも近づけるよう、勉強を頑張りつつも様々なことに積極的に取り組み、人との関わりを大切にしながら多くの貴重な経験を積んでいきたいと思っています。



新潟大学に入学してはや一年 地質科学科 2年 原 康祐

私が新潟大学に入学して、早くも一年以上がたちました。思えばこの一年間は、あっという間に過ぎてしまいました。しかしその中で、勉強や人間関係などたくさんのことを学び、とても密度の高いものとなりました。特に、私の所属する地質科学科は、他の学部や学科にくらべ少人数のため、同学

年や先輩方、そして教員の方々と、年に数回ある野外自習やコンパなどを通して交流する機会も多く、縦のつな

がり非常に強い学科だと感じました。また、私は高校の時から写真に興味があり、大学では写真部に入部したので白黒写真の撮影から写真の現像までのすべての工程を自分で行うことができるようになりました。休日などは新潟市内や、大学の周辺などで写真を撮っています。

今年で私も2年生になります。2年になると専門科目が増えてくるので、単位を取るのはもちろんのこと、進路についても考えていきたいと思っています。

(写真は1年次に村上市で行った野外実習の様子です)



学生生活のこと

生物学科 2年 青木 俊貴

僕が思うには、生物学とは、この世界を生物という道を辿って解き明かしていく分野と言えます。新潟大学の生物学科では、植物、動物、そしてミクロの世界と、生物に関わる広い分野を学ぶことが出来ます。新潟大学は海が近いという特性を生かし、佐渡で臨海実習を受講することが出来ます。生物学にとって、水生生物は欠かせない存在です。それとじかに触れ合える機会は生物学を学ぶ上で貴重な機会となりました。また、ネット上で英語の論文を購読することも出来るので、英語力を身につければ、数多くの論文に触れることも出来ます。もちろん、大学側で英語学習のサポートとなる科目も開講されています。

生物学科はとても個性的な人が多く、一緒にいて退屈するということがありません。また、1学年20人程度と少ないので、皆基本的に仲がよく、楽しい大学生活を送れます。教授も親身に接してくれます。この辺も少人数の特権と言えるでしょう。

僕が感じるのは、大学生というものは一つの独立した人間として扱われているように思えます。大学という場では、茫漠としたとても広い自由を与えられます。それをどのように活用するかを決定するのは自分の意思です。サークル活動や部活動に明け暮れるもよし、バイトに精を出すもよし、友人達と思い出を作るもよし、もちろん本分である学業に集中するもよし。

すべては自分の手の中にあると思える今日この頃です。こんなところでよろしいでしょうか？



新入生の皆さんへ

化学科 2年 永井 綾華

皆さんが新潟大学に入学を希望した理由はなんですか？新潟大学に入りたかったから、県内だから、ただなんとなくなど、様々な理由があることでしょう。皆さんがどのような想いでこの新潟大学に入学したにしろ、私は皆さんに有意義な大学生活を送ってほしいと思います。勉学に励むのも良いですし部活に励むのも良いですが、今この時にしかできないことをしてほしいです。そして、知識以外にもたくさんの大切な

ことを学びとってもらいたいと思います。アルバイトをすることで社会経験をつむことができますし、また部活やサークルに入ることによって人と接することや自分の仕事に責任をもつということを学べるでしょう。

大学では知識の他にも、勉強するだけでは学べないようなことも学生生活を通して得ることができると思います。大学四年間、悔いの残らないようにたくさんのことに挑戦し自らを磨いていってください。

最後になりましたが、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。



当たり前のことを当たり前にする

数学科 2年 根本 正志

私は、大学生になってから1年が経ちました。私にとってのこの1年間はとても充実した1年間でした。一人暮らしをするようになり、全てが自己管理になりました。その中でも、時間を自己管理するのはとても難しいのだと感じました。何もしなくても時間だけは勝手に進んでいきます。私は、唯一人に与えられた有限の存在だと思います。

私は、そんな中、本当に好きなことをやって来た1年間だと思います。くだらないことに本気になったり、どうでもいいようなことに夢中になったりしました。やり

たいことは、人それぞれだし、自由だと思います。大学生活で勉強に熱中するのもいいと思います。もちろん、バイトや趣味、恋などに熱中することもとても大切だし、素晴らしいことだと思います。ただ、私は、自分の中で決めた優先順位を決して言い訳によって変えないようにしています。やらない言い訳を作るのは簡単です。それで満足するのも、人それぞれです。しかし、たった1度きりの人生やりたいことをやった方が、楽しい充実した人生だと信じています。私は残りの大学生活も充実した日々を送っていきたいと思います。人生は自分の手で作ります。

物理学科

物理学科では、20年度末に大矢進教授と田村詔生教授が定年退職されました。大矢先生は低温核偏極法を用いた核構造及び核物性の先駆的研究により、新潟大学を日本の原子核研究の拠点として作り上げられました。田村先生は原子炉や加速器を用いた高エネルギー物理学の研究において活躍され、国際共同研究グループの中でも多大な貢献をされてきました。また、お二方とも、研究だけでなく大学生・大学院生の教育にも大変活躍して頂きました。学科への長年の貢献に心から感謝したいと思います。

3月には、春のオープンキャンパスが開かれました。これは、8月に催される全学のオープンキャンパスと違い、理学部で独自に開催しているものです。そのため、参加人数は8月に比べて少なめですが、参加した高校生からは、「じっくりと時間をとって

教員や大学生と話ができた」との感想を聞いています。今後もこのような対話の機会を提供していきたいと思います。

さて、本年度物理学科へは、新しく52名の新生が入学しました。4月7日には新生向けガイダンスが開かれ、高校時代とは違ったカリキュラムに少し不安を感じながらも、初めて出会う新しい講義科目に、わくわくと目を輝かせて説明を聞いていました。

5月29日には、ケルビン祭が開かれます。これは、新生から大学院生・スタッフまで、物理学科の全関係者が参加します。大学院生による研究紹介が行われたり、新生歓迎のバーベキューを楽しんだりするもので、すでに物理学科の年中行事となっています。本年度の新生も、物理学科の一員として参加して、今後の大学生活を楽しんでいくための第一歩となると期待しています。

生物学科

4月17日に、今年度の新生と教員ならびに在校生による懇談会が開かれました。今年度生物学科に入学したのは1年生が22名、3年次編入生が3名です。窓から桜がみえる理学部3Fの会議室で行われました。

3月31日付けで、本学で長年教育・研究に当たってこられた小谷昌司先生が退職されたことは、既にこのニュースで報じました。生物学科にとって、生化学という大きな柱となる分野の先生を失ったことは、誠に残念ですが、その代わりに、昨年度末に着任された藤間真紀先生、本年度4月に新任の伊東孝祐先生の2人の先生をお迎えして（詳しくは新任の紹介ページへ）、懇談会はとてにぎやかに行われました。加藤朗先生の選んで下さった新潟づくしのお弁当を皆で堪能しました。

4月から、新たな学科の配置で、教育・研究を本格的にスタートしました。3月までに理学部C棟の改修工事が完全に終わり、植物系の研究室が、理学部校舎2Fに配置されました。理学部に

すぐ隣接して建っている生命環境棟に、動物系の研究室が3Fに、分子生物学分野の研究室は7Fに在り、もうひとつかたまりを形成しています。本学の生物学科は、動物分野・植物分野ともにバランス良く学ぶことがひとつの特徴となっています。各分野の研究室とも、校舎も気持ちも新たに、生物の形や機能の謎に今年も取り組みます。

8月には、オープンキャンパスも開かれます。毎年、教員と大学院生が協力して、研究室紹介と実習室での展示を行っています。今年は、さらに充実したものをお見せできるよう予定しています。



2009年度新潟大学理学部コロキウム

「コロキウムって何？」と思う方もいるかも知れません。コロキウムは、普通は「ある専門についての討論会」を意味しますが、狭い分野の研究者を対象としたものではなく、比較的広い人々を対象に行うニュアンスがあります。

このことから、理学部コロキウムは、各専門の先生から、専門以外の人々に対して、研究の話を分かりやすくして頂き、討論をする会と位置づけています。2002年に第1回を開催して以来2008年度まで36回を数えています。すべての学科の学生・教職員の他、学外の方々も参加いただける催しです。

保護者の皆様にも、理学部の研究の一端を分かりやすく知る機会になると思います。今年度は次の6回が予定されています。時間はいずれも、午後4時30分～午後5時40分です。

- 第37回 5月27日（地質科学科）
- 第38回 6月24日（数学科）
- 第39回 7月22日（物理学科）
- 第40回 10月28日（化学科）
- 第41回 11月25日（生物学科）
- 第42回 12月または1月（日程調整中）（自然環境科学科）

内容・タイトルなど詳細は、開催日の10日前頃に理学部ホームページでお知らせいたしますので、ご確認の上ご参加ください。またホームページには過去のコロキウムの演題も掲載されています。

<http://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/res/next-colloq.html>

（研究WG委員会委員長 竹内照雄）

これからの 行事予定

8月9日（日）、10日（月） 新潟大学オープンキャンパス
8月11日～9月30日 夏期休業

9月 8日 第3年次編入学試験
9月24日 秋期卒業式
10月 1日 第2期授業開始

オープンキャンパスのイベント等の詳細は新潟大学および理学部のホームページに掲載されます。

お問い合わせ窓口の
ご案内

〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学理学部学務係

TEL : 025-262-6106 / FAX : 025-262-6354
Mail : gakumu@ad.sc.niigata-u.ac.jp